

がん遺伝子パネル検査について

がん遺伝子パネル検査とは

国内ではがんゲノム医療が推進されており、国民が全国どこにいてもがんゲノム医療を受けられる体制が整備されています。当院は、平成 31 年 4 月に「がんゲノム医療連携病院」に指定されており、地域のがんゲノム医療の一端を担っております。

当院では、健康保険によるがん遺伝子パネル検査が可能です。がん遺伝子パネル検査とは、がんの発生に関わる 100 種類以上の「がん関連遺伝子」の変異を一度に調べる検査です。

がん遺伝子パネル検査では、患者さんのがん組織や血液から「がん関連遺伝子」に変異があるかどうかを解析します。がん種によって、調べる遺伝子の数や種類は異なりますが、従来の 1 種類の遺伝子だけに絞った検査ではわからなかったような変異が見つかることがあります。また、その患者さんが持つ遺伝子変異の組み合わせが明らかになることで、患者さん一人ひとりにふさわしい治療を行うことにつながると期待されています。

がん遺伝子パネル検査は、がんの遺伝子の変異を調べ、その後の治療に役立てることを目的としています。しかしながら、結果として、遺伝子変異が見つからないこともあります。また、変異が見つかって、今までに例の少ない変異などの場合には、適切な治療法が限られる場合もあります。日本におけるこれまでの実績から、がん遺伝子パネル検査により遺伝子変異に基づいた治療につながる割合はおよそ 10~15%とされています。

がん遺伝子パネル検査に使用するがん組織については、原則として以前に採取したがん組織を使用しますが、がん組織の状態等によっては、新たに組織採取（生検・手術）を行う場合があります。※血液については、検査実施に合わせて採血いたします。

さらに、場合によっては患者さんのがんに関わる遺伝子変異以外にも、ご家族（血縁者）のがんの発生に関わる可能性のある遺伝子変異（いわゆる遺伝性腫瘍）が見つかる場合があります。そのため当院では、検査を受ける前に[遺伝カウンセリング科](#)を必ず受診していただき、遺伝や検査に関する十分な説明をさせていただきます。

検査を受けることができる方

2020 年 4 月現在、がん遺伝子パネル検査は誰でも受けられるわけではありません。一般的には、①標準治療がない固形がん、②局所進行もしくは転移があり、標準治療が終了した（終了見込みを含む）固形がんの人で、新たな薬物療法を希望する場合に検討します。また、全身状態などの条件もありますので、詳細については各診療科主治医へご相談ください。

当院で実施可能ながん遺伝子パネル検査の種類（いずれも保険診療）

- ・ [FoundationOne CDx（中外製薬）](#)
- ・ [NCC オンコパネル（シスメックス）](#)

検査希望～結果説明までの流れ

